

令和2年度 神田小学校 校内研修

1 研究主題

互いのちがいを認め、学び合う子どもをめざして
～主体的な学びを支援する授業の創造～

2 主題設定について

(1) 今日の課題から

現代社会は、情報化、国際化、価値観の多様化などのめまぐるしい変化への対応の難しさに加え、子ども社会においてもいじめや不登校、ネット依存など心の悩みを抱える子どもたちも少なくない。これからの社会を生き抜いていくためには、このような時代の変化に対応できる資質や能力、互いを理解するためのコミュニケーション能力を育てる必要がある。したがって、本校でも、児童に、各教科の基礎・基本を確実に身につけるとともに、自ら課題を見つけ、主体的に判断し、個々の考えを互いに伝え合い、よりよく問題を解決する力を身につけてほしいと考えている。

(2) 児童の実態と昨年度までの取組から

本校の児童は、明るく素直な児童が多く、与えられた課題に対してまじめに取り組むことができる。また、やることがわかっていれば、進んで課題に取り組むこともできる。

昨年度は算数科を中心に、ガイド学習の方法を身につけるとともに、課題をつかみ、それについて自分の考えをもち、互いの思いや考えを表現し伝えることができることを目標に研究を進めてきた。その結果、子どもたちは、「ガイド役が中心となって、自分たちで学習を進めていく」という意識をもって授業に取り組むことができるようになった。一人学びにおいて自分の考えをもち、個人差はあるが学び合いにおいても自分の考えを発言することができるようになってきた。上学年が下学年に教えたり、下学年が上学年の行動をよい手本として見習ったりするなど、子どもたち自身が複式学級のよさを感じている。授業以外の活動でも、集団登校や縦割り班活動など学年の枠を越えての関わり合いが多く、お互いに気心も知れている。

しかしながら、まだまだ課題に対して、自分自身の考えを掘り下げたり分かりやすく伝えたりする意欲や能力に乏しく、友だちから出される様々な考えを共有し、互いの考えの違いに気付いたり、深めたり高めたりすることは十分ではない。

また、今年度から全面実施される学習指導要領の「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善も必要である。複式学級で、教師が直接指導できない時間にも主体的に学び、友だちと対話しながら学びを深めていく児童を育てること、児童が確かな学力をつけるためにも分かる喜びや学ぶ楽しさを味わえる複式の授業づくりの研究が望まれる。

以上のことから、本年度は、これまでの成果のあった様々な取組を活かし継続しながら、さらなる充実をめざして、研究主題を「互いのちがいを認め、高め合う子どもをめざして」とし、的確な判断力と多様な思考力や豊かな表現力を高め、主体的に問題を解決していくことができる子どもたちを育てていきたい。特に、課題を的確につかみ、自力解決しようとする意欲をもって学習を進め、互いの考えを伝え合い、高め合うことができるようになってほしいと考えている。そこで、副主題を「主体的な学びを支援する授業の創造」とした。

3 めざす児童像

- 自分の考えをもって、互いの意見を聞き合いながら進んで課題を解決することができる。
(言語に関する力・聴く力・読む力・思考力・判断力：一人学び)
- 自分の思いや考えを、わかりやすく伝え、友だちと対話しながら学びを深めることができる。
(書く力・話す力などの表現力：一人学びと学び合い)

4 研究仮説

児童に分かりやすく、興味深い課題を設定し、それについて自分の考えをしっかりとめるように学習のゴールを示すことで、学習への主体性が引き出され、その課題に対する互いの思いや考えをわかりやすく表現し伝えることができるようになれば、児童が互いの考えを共有し高めていくことにつながると考える。

5 研究の内容及び方法

(1) 校内研究授業

- ・公開授業研究は、全員が年間1度は行う。国語科と算数科で、各人が研修したい単元で行う。よって、時期も単元に合わせる。
- ・授業研究においては、授業者が特に見てほしい視点を設定する。(指導案に明記する。)指導案検討会では、授業者が課題としているところについて、全員で話し合ったり、模擬授業を行ったりして解決していく。
- ・研究授業では、講師を招聘する。
- ・CSの仕組みを活用したユニット型研修会を実施し、授業改善や課題の共有化を図る。

(2) 授業力向上のための互見授業

- (3) ガイド学習においては、「つなげる発言」をめざした基本的な話型とガイドシートの活用を実践し、ガイド学習の充実を図る。

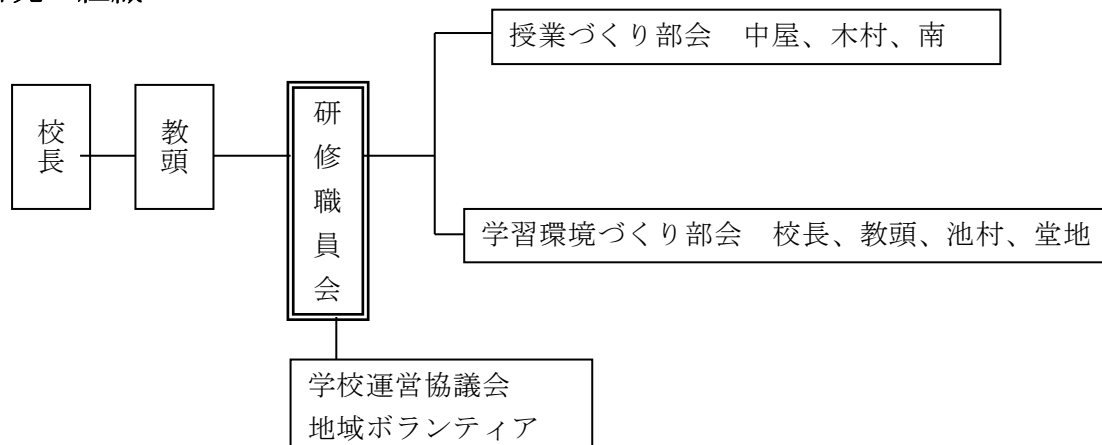
- (4) その他、学力向上プランに関わる取組や各種復伝など、幅広い研修にも取り組む。

例：学習指導要領の改訂に備えた研修
外国語の教科化に備えた研修
複式授業のあり方等

6 研究の視点

- (1) 主体的な学びをつくる複式の授業づくり(課題設定、単元構成、間接指導を支える教師の支援)・・・教師の支援のあり方
- (2) 伝える力の育成(ガイド学習の進め方、学び合いの深め方)・・・学び方の指導

7 研究の組織



8 研究の全体構想

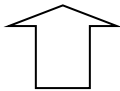
《 日置みずゞ学園教育目標 》
 豊かな心を持ち、主体的に活動する子どもたちの育成

研究主題 互いのちがいを認め、学び合う子どもをめざして
 ～主体的な学びを支援する授業の創造～



めざす児童像

- 場面や問われていることを正しく読んだり聞いたりして、自分の学びをつくることができる。
- 自分の思いや考えを、わかりやすく伝え、共に学び合うことができる。



<p>《ガイド学習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一人学びのための授業の仕掛け ○国語科・課題の設定 根拠をもとに自分の考えをもち、伝え合う。 ○算数科・基礎的事項の定着 図や絵を活用して考えを発表する。 ※ 学習アンケート 	<p>《基礎学力の育成》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○読書(選書本を読もう)・音読(活字に触れよう) ○漢字大会・計算大会 ○みずゞさんの詩の取組 (発表する機会を広げる) ○話す・聞く力をつけるための指導の工夫 ○家庭学習・自主学習の定着
<p>《学びの土台》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○あいさつ運動の推進 ○学校行事・集会・読み聞かせ(感想発表と教師の価値付け) ○朝の会・帰りの会の活用 ○地域人材の活用(場の設定) ○言葉遣い(丁寧語・尊敬語)、<u>場にあった言動</u> ○外遊び・運動の奨励(上学年からの働きかけ) 	

9 研修の実際

月	研修日	研修内容	その他
4	第一回校内研修会(22日) 第一回校内教育支援委員会(22日)	今年度の研究の方向性	読書タイム・神田タイムについての提案
5	第一回校内教育支援委員会 校内研修会 (27日)	学期初めの児童様子から	
6	第二回校内研修会(10日) 第三回校内研修会(17日) 第四回校内研修会(24日)	学力向上に向けての児童の実態分析	
7	第五回校内研修会(15日) 第四回校内教育支援委員会 (15日)	一学期の反省と二学期の取り組み 夏季休業中の研修計画	
8	第六回校内研修会(7日) 第七回校内研修会(19日)	一学期の反省、二学期に向けての取り組み 特別支援研修、綱紀保持研修	第一回日置みすゞ学園研修会
9	第八回校内研修会(23日) 第五回校内教育支援委員会(2日) 第六回校内支援委員会(16日)	いじめ対策委員会 江口先生	
10	第九回校内研修会(14日) 第七回校内教育支援委員会 (21日)	指導案検討(1・2年)	
11	第十回校内研修会(11日) 第十一回校内研修会(25日) 第八回校内教育支援委員会 (18日)	研究授業(1・2年) 指導案検討(5・6年)	第二回日置みすゞ学園研修会
12	第十二回校内研修会(1日) 第九回校内教育支援委員会 (24日)	研究授業(5・6年) 指導者 恩田小 吉野教頭先生 指導案検討(3・4年) 研究紀要の提案	市学力向上プラン検討会
1	第十三回校内研修会(20日) 第十回校内教育支援委員会 (27日)	研究授業(3・4年) 指導者 仙崎小 長岡教頭先生 二学期の反省と三学期の取り組みについて	
2	第十四回校内研修会(10日) 第十一回校内教育支援委員会 (17日)	今年度の反省と来年度の課題と方向性について(研究紀要作成)	日置みすゞ学園研究推進委員会

各学年の目標及び指導内容系統表<話す・聞く・学び合う>

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
目標	相手に応じ、身近なことなどについて、事柄の順序を考えながら話す能力、大事なことを落とさないように聞く能力、話題に沿って話し合う能力を身につけさせるとともに、進んで話したり聞いたりしようとする態度を育てる。	相手や目的に応じ、調べたいことなどについて、筋道を立てて話す能力、話の中心に気をつけて聞く能力、進行に沿って話し合う能力を身につけさせるとともに、工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。	目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力、相手の意図をつかみながら聞く能力、計画的に話し合う能力を身につけさせるとともに、適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てる。
や話 取題 材設 定	ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄を思い出すこと。	ア 関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること。	ア 考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関係づけること。
話 す こ と	イ 相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて話すこと。 ウ 姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。	イ 相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立てて、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。 ウ 相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。	イ 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。 ウ 共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。
聞 く こ と	エ 大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。	エ 話の中心に気をつけて聞き、質問したり感想を述べたりすること。	エ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。
こ話 とし 合 う	オ 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。	オ 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。	オ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。
本 校 の 学 び 合 い	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを発表すること。 友だちの考えを聞くこと。 話型を参考に、つなげる発言ができること。(似ている、質問など) 自分の考えとの違いに気づくこと。 自分の間違いに気づき、正すこと。 友だちのよいところを見つけて感想を伝え合うこと。 今まで知らなかった考えに気づくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題や目的に応じて考えを発表すること。 友だちの考えとの共通点や相違点に気づくこと。 一人ひとりの感じ方の違いに気づくこと。 友だちの発言を受けて、自分の考えを発表すること。 意見や質問ができること。 理由や根拠を入れながら考えを述べること。 今までの自分の考えと違う新たな考えを知ること。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題や目的に応じて、理由や根拠を入れながら、自分の考えがより伝わるように話すこと。 友だちの考えを自分と比べながら聞き、それらを受けて、発言をつなげること。(質問・意見など) 友だちとの話し合いで、自分の考えを広げたり深めたりして、より明確になること。
ガ イ ド 学 習	<ul style="list-style-type: none"> ガイドカードやガイドメモを使って進行ができること。 教師が不在の時でも、ガイドに従って、友だちと学習ができること。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任との打ち合わせや簡単なガイドカードでも進行できること。 教師が不在の時でも、友だち同士で協力し学習ができること。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師が不在の時は、ガイドを中心に進め、課題にそった学習ができること。 困っているガイドには、助言ができること。

